

「熟練技」と「新技術」の融合 モノづくり大田区から 日本のテクノロジーを支える

上田製作所

上田製作所(大田区大森西、上田大輔社長、03・3764・1311、<http://www.ueda-mfg.co.jp>)は、金属加工機械による自動車部品の製造を主業とし、400種類以上の製品を取扱っている。お客様のニーズを汲み、設計・開発・試作から量産まで幅広く対応している。納品先においても、いすゞ自動車(株)など大手自動車会社との取引があり、製品への評価と信頼が窺える。

同社の強みは「デザイン性の高い製品の量産加工」である。従来は旋盤加工・フライス加工・MC加工という3つの工程を単独で行っていたが、その工程を複合切削工作機械である複合旋盤や多軸マシンングセンターなどにより一本化した。ワンストップで切削加工を行うことで作業負担が減らせる上、複雑な形状の切削により他と異なるデザインなどユーザーニーズに柔軟に対応できる。



ワンストップに、作業工程を一本化

製品の機能と品質・生産性は自動車部品という枠組みを超えた多方面で評価され、複雑形状の部品の量産も行い、今年3月に開通した北陸新幹線のシートにも部品が使用されている。また、NHKの特集ドラマにもなった、モノづくり大田区の「下町ボブスレー」にも協力し、ハンドル操作部周辺の部品製作に携わった。

「芳醇なワインは優れた品質の葡萄からつくり出されるように、優れた技術でつくられたパーツこそが高い信頼性を保証するマシンの基盤である」、それが同社を支える信念だ。上田社長は「お客様に喜んでいただける製品をつくり、社員の皆にもそこから仕事のやり甲斐を感じてほしい」と語り、お客様と社会から信頼と満足をいただける製品の提供と、社員の方にも喜びを感じてもらうために日々の業務にあたる。まさに、近江商人の心得である「三方良し」をめざし、日本のテクノロジーを支えている。

